

みなと元町

タウンニュース

No.
298

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

地区計画は、ワクワクするまちづくりを実現するための1つのツール

まちづくりコンサルタント・合資会社ゼンクリエイト 根津昌彦



先日、元町壱番街商店街のオーナー会にお邪魔し、現在タウン協議会で検討を進めている地区計画について、これまで神戸元町商店街まちなみ委員会を中心に議論してきたことの「さわり」部分をお話しし、オーナーの皆さんのお考えを伺ったところ、非常に胸に突き刺さる言葉をいただいた。端的に言う、「(地区計画を策定するという話は)ワクワクするような話ではなかった」というもの。

なほ、そういう捉え方がオーナーの立場から見た場合の、一つの視点であるのだと、目から鱗であった。説明者の話し方が楽しそうでなかったからという問題ではない。地区計画を策定することの本質を突かれたような気持ちになったのである。

これまで、私たちが先述の委員会の場で議論してきたことは、タウン協のエリア内の建物も随分と老朽化してきており、

建替えをはじめとする建物の更新も徐々に進んでいる。しかし、道路斜線制限や前面道路幅員による容積率の制限などで、都市計画で定められている容積率を使い切ることができない土地も相当数あり、建て詰まっているエリアなどでは、有効な建物更新計画が立てられないという実情もある。

こうした課題を、地区計画制度の規制と緩和をうまく組み合わせることによって、建物更新意欲を高めたり、いまよりも建替えしやすくし、新しい価値、新しい街をつくっていかうというものであった。でも、それだけではダメ。まちづくりを考え、語ると、ワクワクするような要素が抜けていると、土地建物のオーナーの皆さんは自ら腰を上げて議論に参加しないという示唆をいただいたように思っている。

制限内容の例として、建て替える建築物の「壁面の位置の制限」「壁

面後退区域における工作物の設置の制限」があるが、壁面後退する幅や後退した部分をどのような設えにするかというルールが地域にあれば、建替えが進んでいくことによって、思い描いたまちなみに徐々に近づいていくことになる。あくまでも実現に向けた手法や仕組みとして、地区計画を活用するのであって、具体的な事例なども示しながらこうなりたいという「思い描くまちの像」をまずは議論することが必要ではないか。ワクワクするまちなみになるための要素は何なのか、まちを楽しみたい人、商売したい人を集めるためには、どのようなことが必要か。それらが、いまの元町にあるものなのか、ないものなのか、そういったことをしっかりと話し合いによって引き出し、確認しあうことが重要であると、オーナー会にお邪魔して、あらためて感じさせていただくことができたのである。

様々な表情を持つタウン協のエリアごとに、将来どうありたいかということ語る場・機会をもって、ワクワクするまちづくりが共有できた後、その実現のツールとして地区計画制度を有効に活用するという議論に移すことが、地区計画の必要性を実感してもらうための近道かもしれない。

「元町・夢街道」

洋服の話⑬

背広の語源

岩田照彦

「背広」の語源を服飾評論家・石尚三氏に教えられたので、紹介しておきたい。

「sack coat」の訳。三省堂大正7年刊行の日本百科大事典第9巻サックコートに、袋服のことにて、わずかに体躯をまとうにとどめ、しかも動きやすく造られたため、あたかも袋をまといし有様なるをもつてこの名あり、とする。

「business coat」の呼び名は慶応三年、福沢諭吉が、弟子の片山淳之助の名前で刊行した「西洋衣食住」に、サックコートをビジネスコートとして絵入りで紹介したのに始まる。割羽織(フロックコート)は身分ある人の常服で、丸

羽織(ビジネスコート)は職人などの衣服だが、高貴の人も、自宅に居るとき、また外へ出るときに着ることがある。羽織の地合いは羅紗が多い。夏はカシミアなどで、絹と毛と半分まざりにて織たるもの、またはフラネル、または白地の麻を用ゆ、と説明している。渡航直後だけに、わしい。

市民服「civil cloth es」の音が日本語化されたというものもある。

る。「制服」に対する「私服」の意で、外国船の士官が上陸して外出のとき、制服から私服に着かえる。私服の名を尋ねたら、シヴィル服という答え。真似て作った服を、セビロ服と呼んだ。英語の「civil」が開港場あたりで転化したのであろう、とする説だ。ロンドンの高級洋服店街「Savile Row」を「セビロ」と聞きとった、という説もある。「セビロ」は、フロックコートやイヴニングコートより格下の服装で、落ち着いた屋敷町からみても、街の名前と結びつけるには無理があるようだ。

他にも英国の良質の羊毛・服地の産地「Cheviot」の音からの説、英語の中国語訳に「vest、背心」と「背」の文字を使っていることから、中国語由来説もある。

日本語の発祥説は、「背筋に縫い目がないため背広」というものだ。現在、セビロには、背筋に一本縫い目があるが、初期の背広には縫い目がなく、一枚の布地で仕立てられていた。フロックコートやイヴニングコート(燕尾服)にくらべ、背が広くみえたことから「背広」と命名されたという。(大正七年刊三省堂の日本百科大事典に日本では背広と称えしならんと、説明がある)。はじめにセビロと言いつつ始めたひとは、背中が広い意味から「背広」の文字をイメージしていたのだろう。あるいは裁断士の専門用語だったのかもしれない。



栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は5月12日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(神戸市住宅都市局)坂田竜一・田中淳也・田中雄哉、(広島銀行)村上可純、(トマト銀行)渡辺健雄、(兵庫県信用組合)柏木愛・古門佑樹、(銀泉興産)福田時雄、(三鈴マシナリー(株))稲岡千硯、(神明倉庫)米沢彩香、(㈱イーエスプランニング)水野靖之、(神明)濱中征二、(大一産業)有末正人、(新光明飾)中川俊・西村友博、(佐田野不動産(株))佐田野宏之以上、16名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



編集後記

神戸商店街新聞で、岡本商店街に「不動産オーナー交流会」の発足を知った。同商店街一帯は、大学をひかえ空き店舗のない魅力に、塾やチェーン店が増加、集客力の高い魅力的な店舗の減少で、まちに必要な業種や業態の不足がみられるようになった。二月に開かれた初会合では、まちの魅力創造が不動産価値を上昇させた実例として、古民家を高級ホテルに変貌させた篠山の例などに耳を傾け、会員の間で刺激になったようだ。街全体を見据えるオーナーのみなさんは、商店街の将来を、どのような路線で足なみをそろえられるのか…。

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 6月

◇元町1番街商店街振興組合 TEL331-7850

水曜市 6月21日(水)10時～19時

第2回元町1番街川柳コンテスト

6月24日(土)～7月31日(月)

◇風月堂ホール(有料) TEL321-5555

もどまち密蔵「感雑亭」

6月10日(土)

桂 咲之輔 林家 菊丸 笑福亭 瓶吾

桂 福團治 中 入 桂 三風

桂 雀三

前売券5月11日より風月堂で発売

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL361-4523

6月1日(木)～6月6日(火)

もともちハートミュージアム2017(絵画等)

6月8日(木)～6月13日(火)

第7回 橋水会水彩風景画展(水彩)

6月15日(木)～6月20日(火)

第28回 彩悠会展(油彩・水彩・パステル)

6月22日(木)～6月27日(火)

第13回 回転ドアの仲間たち“油彩展”

海という名の本屋が消えた (43)

平野義昌

淀川長治(映画評論家)その1

淀川長治(1909～1998年)は兵庫津の花街・西柳原の生まれ、育ち。家は裕福な料理屋・芸者置屋。父母は歌舞伎、文楽、映画が好きで、早朝の船で大阪まで出かけたほど。長治少年も幼い時から映画館に連れられて行った。7歳頃には週3回ひとりで行ってた。3本立て、毎週9本見ていた計算。家から映画館街・新開地まで徒歩約20分である。

町内に探偵小説翻訳家・西田政治(本稿「探偵小説」で紹介)の家があった。長治はしょっちゅう遊びに行って、英字新聞・洋雑誌の絵や写真を見せてもらっていた。《西洋が五歳六歳のまぢかにあった。》^{註1}

兵庫県立第三神戸中学校(神戸三中、現在県立長田高等学校)入学後も新開地通いは続いた。生徒単独で映画館に行くことは禁止、教師が定期的に見回っていた。長治はいつも堂々と映画を見に行った。ある日、見回りの教師が映画に感動して泣き笑いしていた。長治から教師に声をかけた。「先生、よかったでしょう」。教師に映画と同じくらい数学を勉強しろと注意されるが、逆に自分が感動した映画をすすめ、その教師は「あんな、いい映画を見たことがない」と、全校生徒を連れて見に行った。以来、神戸三中では単独映画鑑賞は解禁となった。それどころか、月1回全校生徒参加の映画鑑賞会が行われ、長治が映画選定役になった。

長治は数学が苦手だが、英語は得意だった。アメリカの映画スターにファンレターを書くために勉強した。好きこそ物の上手なれ。試験勉強のための勉強には身が入らなかった。映画作品から勉強で得られないであろう家族愛、友情、恋愛、希望を学びとった。《僕の学校は映画館。その「学校」で学んだことで救われ、生きてこれた。》^{註2}荒井

中学生・長治は元町に進出する。《……私は元町の宝文館や川瀬で「モーション・ピクチュア」や「クラシック」や「シャドウ・ランド」というアメリカの映画雑誌を毎月買いあさった。口絵の写真と表紙の絵を見て楽しむためだった。》^{註1}

喫茶店にも出入りした。友人と三星堂喫茶部でポット入りの紅茶を注文していた。長治にとって元町から海岸通・波止場・居留地は、映画と雑誌で親しんでいた西洋文化が身近なものとして出現する空間だった。《その元町趣味が、やがて海岸通りの散歩に発展し、リングを囁りながら散歩する。これも思えばその海岸通り(これをメリケン波止場と呼んだ。また居留地ともいった)を散歩の西洋人の船乗りのやっているまねをしたにちがいない。そのころにイースターやハロウィンなど外国の祭り行事も知ったのであった。秋更けた十月末の三日月美しい夜に西洋の子供が五人十人とむらがってカボチャコーチンを手に悪魔のお面などつけて紙のこなを色どり美しく手でまきちらしな

がら歩いてゆくのを私は十二、三歳のころ見とれたものである。クリスマスには道ですれちがう西洋人に「メークリスマス」といえば必ず大喜びするのが楽しくてよく西洋人にそう呼びかけた。》^{註1}

イギリスのサーカスもやって来た。《夏のことで、私は毎夜かよいつめた。サーカス団員は全部西洋人ばかりで夜の八時から始まった。客席のその円形の半分までが西洋人だった。ひるはマチネーと呼んで子供向きのをやった。中売りの「せんべいにキャラメル」これまでが西洋人で関西風に「おせん」にキャラメル」などではなく「コール・キャフェー」「コール・キャフェー」といいながら廻ってくる。当時これが「アイス・コーヒー」つまり「冷やしコーヒー」のことをいっているのだと初めて知って「キャフェー」と面白がってその西洋人の中売りにゼニを片手に大声で手を上げたりもした。》^{註1}

楽しい散歩は続く。《さてメリケン波止場。そこにはオリエンタル・ホテルがあり、そこから元町へのタテヨコの通りには洋書専門の丸善はじめタムスン薬局、レイクロフォード雑貨店、クレセント・ビル筋向かいのユーハイムと、中学上級時代の私をわくわくさせたここは外国気分あふれた散歩コースであった。》^{註1}

外国の石鹸や歯みがき、おもちゃや人形、ネクタイや靴下、どれも高価な品物だった。ユーハイムの紅茶とビスケット、その近くのレストラン、トアロードのトア・ホテル。《私の家はクリスマス近くになるとオリエンタルとトアこの二つのホテルによく夕食をとりに出かけたものである。オリエンタルはアメリカン・スタイル。トアはヨーロッパスタイル。トア・ホテルのクリスマスツリーはみどりの枝枝になまの真赤なリングを一杯吊って、実に美しかった。》^{註1}

第一次世界大戦終結後、好景気から大不況になり、関東大震災があっても、まだ長治の周囲には贅沢があった。裕福で文化を楽しむ家庭で育った。新開地には映画館だけではなく、東京の帝劇を模した聚楽館があり、アンナ・パブロワはじめ世界的な芸術家とその舞台に立った。長治は本物を見ることができた。神戸には中華街もある。

《元町の一丁目二丁目、ここに南京町がある。いまでいう中華街。このやさきそばのなんたる美味。ひすいの耳輪にてんそくの五十がらみの中国女がその小さな小さな両足を八の字にひらいてヨチヨチと歩く姿も今は見られまい。》^{註1}

花火線香の爆竹、ポップンの音(細長い管を吹くとガラス玉の底が鳴る)、そのガラス玉に描かれた鮮やかな花の色など、「中国のものが神戸ゆえに伝わった神戸の正月風景」と賞賛している。^{註1}

淀川の姉富子が喫茶店を経営していたことを紹介しておく。1923(大正12)年に新開地

近くで喫茶店「オリオン」を開いた。中学生だった淀川が野尻抱影(天文学者・文学者)の著作を愛読していて、「オリオン」という星座の名をつけた。天井いっぱい星をくりぬき、スリガラスと電飾をほどこした。姉はコーヒー、紅茶、ココア、ケーキなど最上等のものを安く出した。特に映画会社の人たちに人気だった。関東大震災後、日本支社が神戸に移転してきており、日本最初の外国映画封切り場所になっていた。^{註3}

この姉が著名な美術蒐集家の妻となるのだが、またの話にしたい。1927(昭和2)年、長治は神戸三中を卒業、大学進学で上京するが、映画館めぐりの毎日。そのうえ雑誌『映画世界』の編集員募集に応募して採用された。面接で長治が神戸から来たとただただで、経営者は「淀川君だろう」と名前を言い当てた。長治が毎月熱心に投書していたことを覚えていた。長治は尊敬する評論家と仕事をし、好きな映画を見られるというこれ以上ない生活だったが、父親に呼び戻される。姉がトアロードで西洋美術品店を始め、父も出資していた。この店を手伝わされる。この頃、家業の料理屋が思わしくなく、父は長治に商人の道を歩ませようとしていた。長治は映画で鍛えた英語とユーモアで外国人客との会話を楽しんでいたのだが、《映画からすっかり離れて商人になるということは、私にはその決心がつかかねた。しかし姉と父に攻めはさまれ私は店員となった。ハンドバッグを売る、ライターを売る、香水を売る、ネクタイを売る、この苦しみは、しかしまたそのいっぽう姉の大胆不敵な商品買入れの断行でフランスといわずイタリア、アメリカ、イギリス、チェコ、スペイン、ありとあらゆる世界の美術品を直接輸入する貿易商人の協力をもって、私はそれらのぜいたく品を手でさわって学ぶ時を持てた。》^{註3}

姉は派手な商売と私生活で神戸の名物女性となっていた。店には谷崎潤一郎や小磯良平はじめ有名が多く訪れ繁盛したが、長治は商売に希望を見出せなかった。雑誌への投稿、映画好きの集まりを続けていた。

^{註1} 淀川長治「私はまだかつて嫌いな人に逢ったことがない」(PHP研究所、1973年)
^{註2} 荒井綴「映画少年・淀川長治」(岩波ジュニア新書、2000年)
^{註3} 淀川長治「淀川長治自伝 上・下」(中公文庫、1988年)



聚楽館1933年の姿、『神戸新開地物語』(のじぎく文庫、1973年)より。1913(大正2)年完成、地上3階地下1階の鉄筋建築大劇場。34年改築、3階にアイススケート場、屋上庭園ができる。

出来事ファイル (No.17-6)

■近藤裕重氏 元町商店街連合会長に

元町商店街連合会会長・蓮池國男氏の任期終了に伴い、6月から元町3丁目商店街振興組合理事長の近藤裕重氏が、連合会会長に就任する。任期は2年。「商売は社会貢献であることを忘れず、お客様にモノを買っていただいて喜んでいただくためには、どうすべきか考えていきます。そして、たくさんの方々の笑いのあふれる商店街にしたい」。



■五輪塔慰霊祭に参拝

元町商店街連合会では4月22日(土)、北区有野町唐櫃にある古寺山五輪塔への慰霊参拝を行った。午前10時、奈良山相談役をはじめ、各丁を代表して協和会館前に集まった参加者はマイクロバスに乗車、一路、古寺山へ、到着後、墓苑内の仏堂で、加川老が読経、参加者一同、合同で般若心経を斉唱、その後、墓苑にも参拝、慰霊祭を終えた。



■「神戸駅東地区クリーンチーム」誕生

中央郵便局や結婚式場のエスタシオン・デ・神戸、ネットトヨタ兵庫のほかマンションも続々完成して見違えるようになったハーバーロード。地域のまちづくりをすすめる元町ハーバー懇談会は、これまで各社別に取り組んできたクリーン作戦を、6月の第1水曜日から「神戸駅東地区クリーンチーム」として各社合同で実施するための準備を進めている。



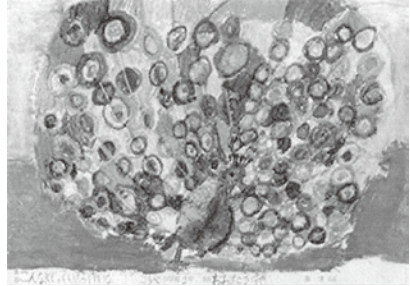
■神戸元町商店街連合会「イケテル商店街」に

近畿経済産業局は、商店街を取り巻く厳しい環境の中、優れたリーダー等が中心になって商機能・公共機能・組織の強化に取り組み成果を挙げている商店街を「イケテル商店街」に選定している。神戸元町商店街連合会も、WIFIの設置、多言語対応、観光案内書の設置など国際化が認められ、このほど「イケテル商店街」に選定された。



■第29回児童絵画展開く

元町5丁目商店街振興組合が29回目の元町児童絵画コンクールを開催、4月29日～5月7日まで、5丁目商店街で展示された。こうべ小学校2年の太田寿弥さんの作品「ことなくじゃくがいたらいいな」が、兵庫県知事賞に。「素晴らしい作品です。このようなクジャクが空を飛んでいたらどんなに美しいでしょうね」(宮崎みよし先生評)。



■元町こどもキッチン開業

児童の急増、共働き家庭の増加など、子供をとりまく環境の変化に寄り添うため4月、地元婦人会と神戸ファーマーズマーケットが協同で運営する「元町こどもキッチン」がスタートした。場所はニューもとビル5階「キッチンスペースまるめろ」。祝日を除き毎週水曜日午後4時～7時まで開く。有料。参加申し込みは高橋さんまで(☎391-1050)



■シスターズ こどもの日に歌う

もとまち商店街コーラスグループ「元町シスターズ」は5月5日(金・祝)午後2時から、元町1番街商店街ユニクロ前を舞台に、訪れてきた人たちを元氣なコーラスの歌ごえで楽しませた。披露した曲は、こいのぼり、花のまわりで、君を載せて、散歩、いい日旅立ち、上を向いて歩こう、見上げてごらん夜の星を、私の好きな元町など。



■神戸元町新聞リニューアル

元町商店街連合会の広報部が担当する「こうべ元町新聞」が、リニューアル発行されることになった。B4版二つ折りで全頁カラー。5月発行の第1号は、2～3頁に元町新聞リニューアルのお知らせ、元町商店街HPリニューアルの案内、4頁には新店舗とイベント情報、小ネタ集、神戸タータンについて。手作りのため、配布先は組合員に限られる。



□読者プレゼント

企画展郷土作家シリーズ「明石巡り」展覧会鑑賞ご希望の方は、はがきに住所・氏名・年齢・本紙へのひとことを添えて編集部まで。先着順で5組の方に招待券を差し上げます。場所:明石市立文化博物館(☎078-918-5400) 期間:6月10日(土)～7月9日(日)



伊藤太一「時の道の古寺」

□印は、これからの出来事です。